



ECOLOGY トヨタは、「トータルクリーン」をめざしています。

「トータルクリーン」を基本理念に、環境に配慮したクルマづくりを進めています。生産から廃棄にいたるトータルライフの視点により、環境への取り組みのひとつひとつをすべての過程で連携させ、クリーンなクルマづくりをめざします。さまざまな環境目標を、バランスを取りながら達成し、総合的に環境性能の向上を図ります。

*1. Eco-VAS [エコバス] : Eco-Vehicle Assessment System。車両開発責任者が企画段階で生産、使用、廃棄にいたるLCA(ライフサイクルアセスメント)の考え方を踏まえた環境目標値を設定。全開発プロセスを通じて目標達成状況をフォローして、確実な達成を図る総合的な環境評価システムです。

■ 地球温暖化を防ぐために

燃費向上 温室効果ガスであるCO₂排出量の低減をめざして、新開発のLPG-ハイブリッドシステムを採用し、徹底した燃費の向上を図りました。
省冷媒化 エアコンの冷媒には、オゾン層を破壊しない代替フロンHFC-134aを採用しています。



■ 都市環境のクリーン化のために

排出ガスのクリーン化 三元触媒、空燃費補償装置などの採用により排出ガスのクリーン化を推進。その結果、全車「平成17年基準排出ガス75%低減レベル」の認定を国土交通省より取得しています。



■ 環境負荷物質を削減するために

環境負荷物質の削減 鉛、水銀、カドミウム、六価クロムを削減し、業界自主目標を達成しています。

VOC^{*2} の低減 内装部品の素材、加工法、接着剤の見直しにより、揮発性有機化合物(VOC)の発生量を抑制し、車室内の臭いや刺激臭を軽減するなど、業界自主目標を達成しています。

*2. VOC:Volatile Organic Compounds

トヨタ JPN TAXI (ジャパンタクシー) 環境仕様

車両型式		DAA-NTP10	
車両仕様	型式	1NZ-FXP	
	エンジン	総排気量	L 1.496
	燃料		LPG
駆動装置	駆動方式		前輪駆動方式
	変速機		電気式無段変速機
環境情報	燃料消費率	JC08モード 燃料消費率※1 (国土交通省審査値) km/L	19.4
		CO ₂ 排出量 g/km	87
		参考	「平成32年度燃費基準※2」をクリアしています。
	主要燃費改善対策		可変バルブタイミング機構、アイドリングストップ装置、電動パワーステアリング、ハイブリッドシステム、電気式無段変速機
環境情報	排出ガス	認定レベルまたは適合規制(国土交通省)	SU-LEV ※3 ※4
		CO	1.15
		NMHC	0.013
	車外騒音	NOx 加速／定常／近接※5 dB	72(規制値)／-／67
環境負荷物質削減	冷媒の種類(GWP値※6)／使用量	g	HFC-134a(1,430※7)／570
	鉛		自工会2006年自主目標達成(1996年比1/10以下※8)
	水銀		自工会自主目標達成(2005年1月以降使用禁止※9)
	カドミウム		自工会自主目標達成(2007年1月以降使用禁止)
	六価クロム		自工会自主目標達成(2008年1月以降使用禁止)
車室内VOC			自工会自主目標達成

※1. 燃料消費率は定められた試験条件のもとでの値です。お客様の使用環境(気象、渋滞等)や運転方法(急発進、エアコン使用等)に応じて燃料消費率は異なります。※2. 省エネ法に基づき定められている燃費目標基準 ※3. JC08モード走行 ※4. 平成17年基準排出ガス75%低減レベル ※5. 平成28年騒音規制 ※6. GWP:Global Warming Potential(地球温暖化係数) ※7. フロン法において、カーエアコン冷媒は、2023年度までにGWP150以下(対象の乗用車における国内向け年間出荷台数の加重平均値)にすることを求められております。※8. 1996年乗用車の業界平均1,850g(バッテリーを除く)。※9. 交通安全の観点で使用する部品(ナビゲーション等の液晶ディスプレイ、コンピューターメーター、ディスチャージランプ、室内蛍光灯)を除く。